

石川工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	地理
科目基礎情報				
科目番号	20024	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子情報工学科	対象学年	3	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書：『高校生の地理A』帝国書院、『新詳高等地図』帝国書院			
担当教員	小西 洋子			
到達目標				
1.地形環境と人間生活の関連を理解して、説明できる。 2.世界各地域の資源・エネルギー問題について理解して、説明できる。 3.気候環境と地形、植生、産業の関わりを理解して、説明できる。 4.工業地域の立地条件と社会環境の関わりを理解して、説明できる。 5.様々な宗教問題、民族問題について理解して、説明できる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	地形環境と人間生活の関連を正しく理解して、説明できる。	地形環境と人間生活の関連を理解して、説明できる。	地形環境と人間生活の関連を説明できない。	
評価項目2	世界各地域の資源・エネルギー問題について正しく理解して、説明できる。	世界各地域の資源・エネルギー問題について理解して、説明できる。	世界各地域の資源・エネルギー問題について説明できない。	
評価項目3	気候環境と地形、植生、産業の関わりを正しく理解して、説明できる。	気候環境と地形、植生、産業の関わりを理解して、説明できる。	気候環境と地形、植生、産業の関わりを説明できない。	
評価項目4	工業地域の立地条件と社会環境の関わりを正しく理解して、説明できる。	工業地域の立地条件と社会環境の関わりを理解して、説明できる。	工業地域の立地条件と社会環境の関わりを説明できない。	
評価項目5	様々な宗教問題、民族問題について正しく理解して、説明できる。	様々な宗教問題、民族問題について理解して、説明できる。	様々な宗教問題、民族問題について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係				
本科学習目標 1 本科学習目標 3				
教育方法等				
概要	世界各地の自然、産業、社会を学ぶことによって、技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。そして、世界の文化の多様性や、現代的問題について考察することで、幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できるようになる。			
授業の進め方・方法	事前事後学習など：授業ごとに小テストを行う。 関連科目：歴史Ⅰ、現代社会、倫理			
注意点	単に地名やことばを覚えるのではなく、地図帳や資料集を眺め、またはインターネットを活用するなどして、頭の中にそれらの土地や現象のイメージを描けるように努めること。 (評価方法) 期末試験を実施する。 期末試験（30％）、小テスト（課題提出）（70％）で成績を算出する。 但し、新型コロナウイルス感染拡大により、期末試験が実施できなかった場合は、小テスト（課題提出）（100％）のみで算出する。 成績の評価基準として50点以上を合格とする。			
テスト				
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	イントロダクション/世界の地形	世界の地形について説明できる。
		2週	世界の気候と文化	世界の気候と文化について説明ができる。
		3週	東アジア 1 中国	中国の文化と近年の経済発展、民族問題について説明ができる。
		4週	東アジア 2 韓国	韓国の文化、日本との関わりについて説明ができる。
		5週	東南アジア	東南アジアの農業・工業および近年の経済発展について説明できる。
		6週	南アジア	南アジアの社会の特質と工業の発展について説明できる。
		7週	西アジア	西アジアのイスラーム社会、石油産業、民族問題について説明できる。
		8週	復習	
	2ndQ	9週	アフリカ	アフリカの文化と農業について説明できる。
		10週	ヨーロッパ	ヨーロッパの文化とEUの発展・変化について説明できる。
		11週	ロシア	ロシアの文化と産業に関して説明ができる。
		12週	アメリカ	アメリカの社会と産業に関して説明ができる。
		13週	ラテンアメリカ	ラテンアメリカの歴史文化と産業について説明ができる。
		14週	オセアニア	オセアニアと日本との関わり、多民族国家であるオーストラリアの社会について説明できる。
		15週	前期復習	
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	1	
				複数の情報を整理・構造化できる。	1	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	1	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	1	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	1	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	1	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	1	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
				目標の実現に向けて計画ができる。	1	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	1	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	1	
評価割合						
			試験	小テスト	合計	
総合評価割合			30	70	100	
基礎的能力			30	70	100	
専門的能力			0	0	0	
分野横断的能力			0	0	0	